

航空機向け部品 増強

3月14日 曜日

2016年(平成28年)

埼玉・三芳工場を稼働

三芳合金と連携 需要増に対応



【川越】大和合金(東京都板橋区、萩野源次郎社長、049・273・6006)は、埼玉

県三芳町に三芳工場を新設し、操業を始めた。東京・板橋の本社工場から生産機能を事実上移転する。この直前に立地する製造子会社の三芳合金工業(萩野茂雄社長)と、特殊銅合金製品の製造から検査・出荷まで緊密な連携体制を構築し、リードタイム短縮や製品の歩留まりを向上させる。特に伸びが著しい航空機向け足回り部品の生産を増強する。

大和合金が新設した三芳工場の敷地面積は5590平方メートル、本社工場の3倍強。加工設備として、本社工場から移設した8台の数



大和合金で出荷を待つ、航空機足回り部品

内製化率を向上させ、検査工程の移管を受けると、三芳合金工業で行っていた非破壊検査によるタイムロス削減

している。同社は「欧州の大手航空機部品メーカーの品質認証を複数年受ける」(萩野源次郎社長)など、ここ数年で航空機向け部品受注が数倍に伸びた。このほか、自動車向け抵抗溶接電極や、半導体スパッタリングターゲット台座、海底ケーブル向け筐体などの受注が好調だ。今後は原油や天然ガスなどの市況回復を見込み、プラント部品などの受注増も視野に入れる。

大和合金は銅合金の同38億円と、ともに過去最高の売上高を更新。さらに15年度は「両社とも14年度比1割強の売り上げ増」(同)を見込んでいる。